



宮のおんがく会 vol.1 塩川美香子ジョイントコンサート

2010.9.24(金) 開場18:30 開演19:00 富士宮市民文化会館大ホール

主催：富士宮市民文化会館 共催：富士宮市教育委員会



ごあいさつ

本日は、富士宮市振興公社の自主事業「宮のおんがく会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。「宮のおんがく会」は、地元の音楽家に活動の機会を提供し、音楽を通じて地域文化の向上につなげていきたいという思いから生まれた企画です。本日の第1回コンサート開催のためにご支援、ご協力をいただきました多くの皆様方に、深く感謝申し上げます。

本日のコンサートは、塩川美香子さんをはじめ、富士宮・静岡で活躍されているアーティストを中心としたジョイントコンサートです。どなたにも馴染みのある作品を中心にプログラムを編成しましたので、最後までごゆっくりお楽しみください。

私ども、富士宮市振興公社では、音楽を通じた地域文化の発展のために、「宮のおんがく会」を育て、愛され、親しまれるコンサートに育て上げたいと考えております。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

財団法人富士宮市振興公社理事長 安倍雅史



「宮のおんがく会」開催に寄せて

音楽は人を感動させ、人の心を癒してくれます。それは、なぜでしょうか。音楽とはいったい何なのか。最近、音楽のことを説明する次のような言葉に出会いました。

「音楽は、世界に魂を、心に翼を、想像力に飛翔を、哀しみに魅力を、そして、あらゆるものに陽気さと生命を与えてくれる。それは、秩序の本質であり、また、善であり真であり美であるものすべてに繋がっている。音楽は目に見えない。だが、それだから一層魅惑的で、情熱的で、永遠なるかたちといえるのだ。」これは、ギリシャの哲学者であるプラトンの言葉です。音楽のもつ力、音楽の美しさの謎がこの言葉から解けたような気がいたします。

さて、「宮のおんがく会」が多くの関係者の皆さんのおかげで開催する運びとなりました。富士宮市には、市内外で活躍している地元出身の音楽家が多くいらっしゃいます。そのような優れた音楽家の奏でるすばらしい音楽を、地元の会場で多くの市民の皆さんに聴いていただくために、富士宮市民文化会館の自主事業として企画してもらいました。「芸術音楽の市民化」の一層の広がり、麓山の家で開催しました「真夏の音楽会」に引き続いて、この演奏会を機会に大いに期待したいと思います。

富士宮市教育長

佐野敬祥

Program

〈第1部〉

1

ピアノ独奏

エチュードop.10-12「革命」

ショパン

バラード第1番op.23

ショパン

pf 塩川美香子

2

ソプラノ独唱

初恋

石川啄木 作詞 越谷達之助 作曲

この広い野原いっぱい

小園江圭子 作詞 森山良子 作曲

さとうきび畑

寺田尚彦 作詞・作曲

Sop 藤田貴子 pf 塩川美香子

3

テノール独唱

歌劇「運命の力」より
天使のようなレオノーラ

ヴェルディ

歌劇「トスカ」より
星は輝き

プッチーニ

Ten 芹澤佳通 pf 渡辺静香

4

ピアノ独奏

ソナタop.57「熱情」

ベートーヴェン

I Allegro assai

II Andante con moto

III Allegro ma non troppo

pf 塩川美香子

休憩

〈第2部〉 ～オペラの世界へようこそ～

「椿姫」より

ヴェルディ

乾杯の歌

ああ、そは彼の人か ～花から花へ

ヴィオレッタ 藤田貴子

アルフレード 芹澤佳通

サロンの客 富士宮市民合唱団

pf 渡辺静香

「カルメン」より

ビゼー

ハバネラ

花の歌

闘牛士の歌

カルメン 小野田智恵子 (アルト)

ホセ 芹澤佳通

エスカミーリョ 上野裕之 (バリトン)

酒場の客 富士宮市民合唱団

pf 渡辺静香

cb 清 祐介

「カヴァレリア・ルスティカーナ」より

マスカーニ

間奏曲 (アヴェ・マリア)

家へ帰ろう ～乾杯の歌

修道女 藤田貴子

トゥリッドゥ 芹澤佳通

村人 富士宮市民合唱団

pf 塩川美香子

cb 清 祐介

合唱指導・指揮 清 响一郎

監修 塩川美香子

Story

【椿姫】

19世紀半ば、パリ社交界一人気のある高級娼婦ヴィオレッタの館での華やかな宴。青年アルフレードは、「乾杯の歌」を歌う。彼は二人きりになると愛を告白、ヴィオレッタは、アルフレードの純粋な愛の前にとまどい、「ああ、そは彼の人か」を歌う。

二人で幸せに暮らしていたヴィオレッタをアルフレードの父ジェルモンが訪ね、息子と別れるよう彼女に迫る。ヴィオレッタは悲しみの中で別れを決意して社交界に戻る。アルフレードは、彼女の裏切りに激怒し、社交界で彼女をひどく侮辱して悲しませる。

数か月後、病でベッドに横になっているヴィオレッタのもとにアルフレードが駆け込んでくる。全てを父から聞いた彼は、彼女に許しを請う。二人はいっしょに暮らすことを誓うが、時すでに遅く、ヴィオレッタは幸せな日々を思い出しながら、息を引き取る。

【カルメン】

1820年頃、舞台はスペインのセヴィリヤ。タバコ工場の女工たちの中で、一番人気のジプシー女カルメンは「ハバネラ」を歌って男たちを魅了する。カルメンは興味を示さない衛兵のドン・ホセに、胸に付けていた花を投げつけ、ホセの気を引く。

居酒屋で陽気に飲んでいるところに闘牛士エスカミーリョが現われ、大合唱で迎えられる「闘牛士の歌」。カルメンに惑わされたホセは閉店後の酒場で愛を告白するが、カルメンはすべてを捨てて自由な暮らしをしようと誘う。ホセは迷い、カルメンの投げつけた花を取り出し、せつせつと歌う「花の歌」。ジプシーの密輸団の仲間になり、ホセは後悔するが、カルメンの恋心は、すでに闘牛士エスカミーリョに移っていた。

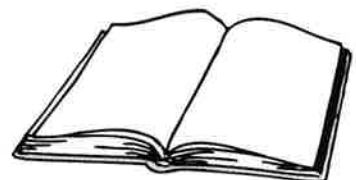
1か月後、カルメンと愛の言葉を交わした闘牛士エスカミーリョが闘牛場に消える。やり直そうと食い下がるホセに、カルメンは昔もらった指輪を投げつける。ホセは激昂してカルメンを刺し殺し、呆然と立ちつくす。

【カヴァレリア・ルスティカーナ】

1890年頃のシチリア島。復活祭の朝、サントウツツアは、トゥリッドゥの母ルチアに、彼はどこに行ったのかと問う。トゥリッドゥは気晴らしにサントウツツアと付き合っていたが、昔の恋人でアルフィオの妻のローラとよりを戻していたのだ。

サントウツツアはトゥリッドゥに昨夜の居場所を問い詰める。彼は聞く耳を持たず、やって来たローラとともに教会に入ろうとし、サントウツツアを突き倒す。サントウツツアは、ローラの夫アルフィオに事の次第を告げ、アルフィオはトゥリッドゥへの復讐を誓う。

美しい「間奏曲」の後、教会から出て「家へ帰ろう」と歌う村人を、トゥリッドゥは母ルチアの居酒屋に誘い、「乾杯の歌」を歌う。そこへアルフィオが現れ、二人は決闘の約束をする。トゥリッドゥは母ルチアに、もし死んでしまったらサントウツツアの面倒をみてほしいと別れを告げる。人々の悲鳴と共に「トゥリッドゥが刺し殺された」と叫ぶ声が聞こえ、母ルチアとサントウツツアは地に崩れ落ちる。



Profile



塩川美香子(ピアノ)

富士宮市立大宮小学校、富士宮市立第二中学校、常葉学園橋高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業後、アメリカに留学。ボストンにあるニュー・イングランド音楽院修士課程修了。ロンジー音楽院アーティスト・ディプロマコース修了。在米中、ソロリサイタルを開催すると同時に、ピアノトリオを結成し、ボストン、モントリオールにて演奏会を開き好評を博す。富士宮市民文化会館大ホールにおいては、ソロリサイタルを3回開催し、富士宮室内オーケストラとモーツァルトピアノ協奏曲を協演している。

帰国後は富士宮に住み、常葉学園短期大学音楽科講師及び常葉学園橋高等学校音楽科講師を経て現在に至る。

富士宮市民文化会館の他、ロゼシアター、富士市交流プラザ、静岡音楽館AOL、静岡市民文化会館等でソロ活動を行なう他、室内楽、声楽や合唱の伴奏において多数の演奏会に出演している。また、富士市の小中学校・幼稚園・各まちづくりセンターで開かれるコンサートにも度々出演している。今年7月24日に開かれた「麓山の家・真夏の音楽会」にも出演している。

フジゾリステン、富士クラシック協会会員。



藤田貴子(ソプラノ)

富士市立吉原第三中学校、常葉学園橋高等学校音楽科を経て、国立音楽大学声楽科卒業。在学中、選抜による演奏会に出演。二期会オペラ研修所第52期マスタークラス修了。佐野栄里、望月美子、菅家美保子、佐橋美起の各氏に師事。イタリア・カターニャにてジュゼッペ・コスタンツォ氏、バツリー二歌劇場副音楽監督レオナルド・カタラノット氏に師事。当地でコンサートに出演。「第6回全日本ジュニアクラシックコンクール」第1位。「第1回東京国際声楽コンクール」入選。「第85回二期会オペラ研修所コンサート」に出演。

オペラでは『フィガロの結婚』伯爵夫人役、『小さな煙突そうじ屋さん』ローワン役で出演。現在、東京・静岡にて演奏活動を行うかたわら、オペラ以外にも、「太鼓の達人」の歌の録音の参加や横浜にてゴスペルシンガーとしても活躍している。

11月6日、沼津市民文化センターにて「第17回クライネムジークコンサート」に出演予定。

二期会準会員。静岡県オペラ協会会員。富士クラシック協会会員。



芹澤佳通(テノール)

国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラ研修所第50期マスタークラス修了。現在、ボローニャ国立音楽院声楽コース第2学年に在学中。

これまでに、Francesca Pedaci、Wilma Vernocchi、Yoko Takeda、打田忠義、田口興輔、中山早智恵の各氏に師事。1999年度静岡県学生音楽コンクール声楽部門第2位。2007年第38回イタリア声楽コンクール「ミラノ大賞」(第1位)受賞、同時に松下電器賞受賞。2008年第11回長江杯国際音楽コンクール声楽(一般の部A)第1位並びにテノール特賞受賞。

第38回イタリア声楽コンクール「ミラノ大賞」の副賞として、2008年よりイタリアのボローニャ国立音楽院に留学中。イタリアではボローニャを中心に数多くの演奏会に出演。これまでにオペラでは『椿姫』(アルフレード)、『ジャンニ・スキッキ』(リヌッチョ)、『道化師』(ペッペ)等に出演。その他にベートーヴェン作曲『交響曲第9番(合唱付き)』、2007年には静岡交響楽団とのベートーヴェン作曲『ミサ曲(ハ長調)』(静岡公演)のソリストをつとめる。

二期会準会員。静岡市出身。



渡辺静香(ピアノ)

富士宮市立黒田小学校、富士宮市立第三中学校、静岡県立富士宮東高等学校を経て常葉学園短期大学ピアノ科卒業。米国シアトル Cornish芸術大学ピアノ科首席卒。ピアノを仲澤裕恵、阿部裕之、古田多真美、Peter Mackの各氏に、室内楽をRoger Nelson、Paul Taub、Bern Herbolshiemerの各氏に師事。在米中、シアトルに於いてピアノリサイタルを開催する他、多数の演奏会に出演。また、Daniel Pollack、Lorin Hollaender氏等のマスタークラスに参加し高い評価を受ける。LMCピアノコンクール入賞。

帰国後はロゼシアターでピアノリサイタルを開催する他、市民ミュージカルの稽古ピアニストや富士市総合文化祭、星空のコンサートや国民体育大会等の市や県の行事での演奏、市内外の公民館や幼稚園、小・中学校で演奏する等、多方面で活躍する。また、青島広志氏とのジョイントや、フラワーデザインワールドチャンピオンの村松文彦氏とコラボレーションを果たす。近年はコンサートの企画・構成にも力を入れており、多数のコンサートを企画し自ら出演する。昨年は世阿弥の傑作である「井筒」をベートーヴェンの「ソナタ月光第1楽章」に乗せて舞うという日本の伝統文化とクラシックを融合し幽玄な世界を作り上げ成功を収めた。

富士宮東高音楽部OG会「泉の会」、「萩の会」専属ピアニスト。フジゾリステン会員。富士市音楽協会会員。富士市文化連盟理事。



上野裕之(バリトン)

昭和音楽大学 同大学院修了 声楽を捻金 正雄、中村 靖、折江 忠道の各氏に師事。La Barba歌劇団公演「フィガロの結婚」伯爵にてデビュー。2008年昭和音楽大学学園オペラ「夢遊病の娘」アレッシオにて本格的オペラデビュー。2009年同学園オペラ「愛の妙薬」ベルコーレにて2年連続出演。

この他に、オペラでは椿姫、リゴレット、仮面舞踏会、セヴィリアの理髪師、コジ・ファン・トゥッテ、イル・カンピエッロなどに出演。

その他コンサートなどにも多数出演。昭和音楽大学重唱研究員。La Barba歌劇団団員。



富士宮市民合唱団 Fujinomiya Choral Society

1979年設立、本年1月22日に創立30周年・第23回定期演奏会を開催。創立時から80年代半ばまでは宗教作品、日本の合唱作品などを中心に活動してきたが、96年のオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」を契機としてオペラ公演を系統的に進め、「道化師」、「カルメン」、「椿姫」、「ラ・ボエーム」、「カルミナ・ブラーナ」などを公演、また97年の富士山麓国際音楽祭参加を契機として、金昌国指揮、アンサンブルofトウキョウの管弦楽で、ヴィヴァルディ「グローリア」、モーツァルト「レクイエム」、「戴冠ミサ」、「荘厳ミサ」、バッハ「マニフィカート」、「クリスマス・オラトリオ」、ハイドン「ネルソンミサ」などを取り上げてきた。合唱団のピアノ伴奏コンサートでは、ブラームス「愛の歌」、「新愛の歌」、ロッシェニ「小荘厳ミサ」、ブルックナー「E-mo I I ミサ」などにも取り組んでいる。本年5月からはブラームス「ジプシーの歌」の練習を開始した他、宗教作品をも取り上げる予定。